

1. 第3次総合計画における施策の体系

目指す都市像 (政策)	番号	5	名称	人と文化がふれあうまち			
施策	番号	3	名称	国際・地域間交流の推進			
主担当部	総合政策部		主担当課	企画政策課		部長名	福西 克行
関係部	魅力創造部		関係課	観光施策課			

2. 施策の基本方針(第3次総合計画の基本方針をもとに記入する)

この施策の目的	国際・地域間交流を促進するため、様々な分野で国内外から多くの人、物、情報等が集まるまちを目指すため、市民が異なる文化との交流や体験を通じて多様な文化への理解を深めるとともに、市の個性ある歴史・伝統・文化等を活かして交流を行い、ふるさとに対する意識を高め、姉妹都市や友好都市との交流を推進し、歴史的なつながりや縁のある都市との交流を図ることを目的とする。
---------	--

3. 施策の現状分析(第3次総合計画の現状と課題をもとに記入する)

この施策の概況	この施策に対する市民ニーズなど、具体的な事項について	社会環境や国・県の動向など、施策を取り巻く環境について
	<ul style="list-style-type: none"> ・友好都市中国洛陽市、姉妹都市宮崎市との市民同士の交流や、文化、産業等、多様な分野での交流が求められている。 ・姉妹都市宮崎市については、相互の訪問団交流や物産交流、農業交流等を拡大していくことが課題である。 ・友好都市中国洛陽市との交流については、今後は中高生や市民間での交流を広めることが求められている。 	<p>韓国公州市との交流は、平成29年度は北朝鮮のミサイル発射実験などの影響を受け中止した。米朝首脳会談が行われるなど緊張緩和も期待されるが、社会情勢等に左右されない実現性の高い交流事業を選択する必要がある。友好都市(洛陽市)交流は、7月に洛陽市人大常委会訪日団が来榘され交流を深めた。</p> <p>平成28年には宮崎市との姉妹都市盟約締結50周年を迎えた。平成29年は新たな50年に向けて更なる良好な関係を維持する。</p>
これまでの成果	<ul style="list-style-type: none"> ・H18洛陽市青少年訪問団派遣 ・H19洛陽市市民訪問団派遣 ・H20洛陽市修学旅行受入 ・H22第2回洛陽市青少年訪問団派遣 ・その他H18以降行政、医療訪問団の受入 ・H26芸術家訪問団の受入・H27第1次、第2次文化財視察訪日団の受入・H28「洛陽・揚州・西安芸術家訪日団」一行15名受入 友好都市盟約10周年記念「洛陽・揚州・西安書画芸術展」を開催 ・H24第1回、H25第2回、H28年度公州大学文化教育プログラム参加訪問団派遣 ・宮崎市、榘原市親善観光訪問団の相互交流 ・榘原と宮崎の物産展の開催 ・農業祭での宮崎市の出展 ・宮崎SAPとの技術交流 	

4. 指標及びコストの推移

	名称及び単位等	28年度	29年度		30年度	備考欄	
		実績	目標	実績	目標		
指標の推移	施策指標① (成果指標)	76人	100人	86人	100人	H30榘原側からは児童交流訪問団と観光訪問団を交互に実施	
	施策指標② (成果指標)	44人	60人	6人	60人		
	施策指標③ (成果指標)	47業者	45業者	46業者	50業者		
	施策指標④ (成果指標)	1校	5校	0校	5校		
	施策指標⑤ (成果指標)						
コストの推移 (単位:千円)	財源の内訳		決算	当初予算	決算	当初予算	
	歳出 (直接事業費)(a)		13,834	13,151	6,166	11,263	
	歳入 (b)	受益者負担額	0	0	0	0	
		受益者負担額以外の歳入(補助金等)	0	0	0	0	
	(a)-(b)=一般財源		13,834	13,151	6,166	11,263	
	正職員	従事者数 (単位:人)	2.20	2.15	2.10	1.70	
		人件費(c)	12,555	12,270	12,207	9,882	
	トータルコスト (a)+(c)		26,389	25,421	18,373	21,145	

5. 施策の評価

有効性の評価	この施策の成果の達成度はどうか	3	1 高い	2 やや高い	3 やや低い	4 低い
	成果向上の可能性はどうか	3	1 十分ある	2 ある程度ある	3 あまりない	4 ない
	説明	平成24年度から開始した韓国公州市との交流は、平成25年度と平成28年度に訪問団を派遣したが、平成29年度は北朝鮮のミサイル発射実験などの影響を受け事業を中止した。友好都市(洛陽市)交流として、7月15～16日、洛陽市人民代表大会常務委員会訪日団が来権され、議事課と共同で受け入れ交流を深めた。宮崎市観光訪問団の参加者数は、参加費用の割高感、参加者の固定化、高齢者参加の偏重などから、H20年以前の実施状況と比較すると減少している。				
	市政全般に対する貢献度はどうか	3	1 高い	2 やや高い	3 やや低い	4 低い
	説明	平成29年度は北朝鮮のミサイル発射実験などの影響を受け事業を中止した。また、国家間では良好な関係とまではいえない中、地方政府間での交流として、7月に友好都市(洛陽市)の洛陽市人民代表大会常務委員会訪日団が来権され、今井町見学など意欲的に権原市内を巡られるとともに交流を深めた。市政への貢献はやや高いと判断する。宮崎市との交流は地域間交流により、本市独自の文化を発信し、人・物・文化の交流を目指す総合計画の趣旨からすると、交流が一部の市民にとどまってしまう現在の事業のあり方では、上位施策への貢献度は高いとは言えない。				

6. 施策の課題

この施策の課題	<ul style="list-style-type: none"> 訪問団事業について、単なる旅行となることがないように宮崎市との交流に主眼を置いたコース設定や交流内容が不可欠である。また、年間を通じて、高齢でしかもリピーターが多数含まれる30名程度の観光メインの訪問団で姉妹都市交流が図れるかどうか、そもそも姉妹都市交流のあり方そのものについて、全庁的に再考が必要である。 総合計画にも記載のとおり、小学生等の若年層の交流の機会の創出を考える。 姉妹都市50周年を契機として、事業の再構築をする。 国際交流においては在住外国人への相談業務や学校等への講師、通訳派遣、広報の翻訳のみであり、市民が国際交流に触れる機会が少ないが、インバウンドやオリンピックキャンプ地誘致など、多方面にわたり、交流が拡大しつつある。
---------	---

7. 次年度以降の施策の方向性

総合評価 1次評価	次年度以降の方向性	2	1 強化する	2 維持する	3 縮小する
	説明	宮崎市との交流については、事業の再構築の必要がある。また、国際交流促進については、社会情勢等に影響されにくく安全で実現性の高い交流を選択する必要がある。また、国際状況を鑑みつつ、洛陽市との交流も継続していく。			
総合評価 2次評価	次年度以降の方向性		1 強化する	2 維持する	3 縮小する
	説明				

8. 構成事業の方向性（それぞれの事務事業における今後の最適手段を検証する）

1次評価	説明	国際交流事業については、社会情勢等に影響されにくく安全で実現性の高い交流を選択する。外国人講師や通訳の派遣についても、在住外国人が増加している中で、一定の効果が見られるため、継続して行う。姉妹都市・観光団事業については、平成28年の姉妹都市盟約締結50年を機に交流自体のあり方を見直す必要があった。そこで平成29年度に交流方法を再考し、平成30年度に小学生を対象とし、権原市・宮崎市の関係性、それぞれの歴史・文化の学習の機会とする児童交流訪問団を実施することとし、その成果を今後の交流方法検討の材料として生かしていく。
2次評価	説明	

9. 施策を構成するそれぞれの事務事業の評価

この施策に関連する事務事業評価の内容(評価内容の転記)								施策評価			戦 略	大 綱
No.	課名、事務事業名 及び事業種別	事業の内容	事業の方向性及び H29決算額		貢献 度	方向性	優先度 (ソフト任意)					
1	企画政策課	<ul style="list-style-type: none"> ・韓国公州市への文化教育交流のための中高生派遣 ・幼・小・中学校への外国人講師・通訳者の派遣 ・在住外国人に対する広報の翻訳や生活相談 ・東アジア地方政府会合への参加 ・多文化共生イベントの開催 			b	見直しながら続ける	C					
	国際交流事業 (ソフト(任意))		1,779 (千円)									
2	企画政策課	平成29年度については、昨今の国際状況に鑑み、洛陽市への派遣等は実施していない。 受入れについては、平成29年7月15日から16日まで、洛陽市人民代表大会常務委員会訪日団が、来糧され、今井町を見学するなど、意欲的に糧原市内を巡り、本市に対する理解を深められるとともに、交流を深めた。訪日団が議会議長一行のため議事課との共同で受入れに対応した。	2	現状のまま継続	b	見直しながら続ける	B					
	友好都市交流事業 (ソフト(任意))		167 (千円)									
3	観光政策課	①親善訪問観光団事業 毎年宮崎市の「宮崎神宮御神幸祭」に合わせて、市民公募により結団された親善訪問観光団を宮崎市に派遣する。観光団は宮崎市をはじめとする九州各地を訪問し、費用の一部を市が負担する。 ②宮崎親善訪問団歓迎会事業 毎年4月の「春の神武祭」のパレードに合わせて来市する姉妹都市宮崎市の訪問団に対して公式歓迎会を行う。 ③「えれこっちやみやざき」踊り隊派遣事業 宮崎市で夏季に行われる「えれこっちやみやざき」へ踊り隊を派遣する。 ④「糧原夢の森フェスティバル」参加宮崎市物産関係者歓迎会事業 毎年10月に開催される「夢フェス」に合わせて来市する宮崎市物産関係者に対して公式歓迎会を開催する。	3	縮小する	b	見直しながら続ける	A					
	姉妹都市・観光団(宮崎市・糧原市)事業 (ソフト(任意))		4,220 (千円)									

※下記評価の解説

- ・貢献度—事務事業評価の結果をもとに、この施策での貢献度(重要度)を絶対評価で示しています。
 (a: 不可欠かつ施策の中核をなす事業、b: 不可欠な事業、c: 不可欠ではないが実施が望ましい事業、d: あまり有効ではない事業)
- ・方向性—事務事業評価の結果をもとに、この施策からみた各事務事業の今後の方向性を絶対評価で示しています。
 (拡大する、見直しながら続ける、縮小する、廃止又は休止する、完了する)
- ・優先度(ソフト事業(任意)のみ)—施策内での事務事業の優先度を相対評価で示しています。
 (優先度が高い順に A、B、C、D)

事務事業評価表（平成29年度実施事業対象）

（作成日：平成30年6月2日）

事業の種類を選択してください。⇒ (ソフト (任意)) 事業											
P L A N 計 画	事務事業名	国際交流事業									
	担当部名	総合政策部		担当課名	企画政策課		課長名	中井 孝			
	総合計画の位置付け	目指す都市像(政策)	5	人と文化がふれあうまち							
		施策	3	国際・地域間交流の推進							
	総合戦略の位置付け	基本目標									
		基本的方向									
	行革大綱の位置付け	重点項目									
		項目									
		改革名									
	予算事業名	国際交流推進事業費									
事業の開始年度	平成	14	年度	事業の終了予定年度	平成	—	年度				
対象	市民、公立幼・小・中学校及び在住外国人			事業の内容説明	<ul style="list-style-type: none"> ・韓国公州市への文化教育交流のための中高生派遣 ・幼・小・中学校への外国人講師・通訳者の派遣 ・在住外国人に対する広報の翻訳や生活相談 ・東アジア地方政府会合への参加 ・多文化共生イベントの開催 						
事業の目的	市民の異文化理解や、国際化意識を高めるとともに、様々な分野で交流を行い相互理解、国際協力の意識を高める。										
市の関与の必要性を評価してください	なぜ市が関与しているのか	1	1 公共性や収益性の観点から、市が関与すべき事業								
		2	市の関与について見直す余地のある事業（民間に事業の一部又は全部を委ねる余地のあるものや、住民ニーズが低下している等、社会情勢の変化によるものなど）								
	説明	国際交流事業はNPOなど民間団体の相互協力のもと事業展開しており多文化共生を進めるうえでは不可欠である。									
	やめた場合の影響は	2	1 非常に大きい	2 やや大きい	3 克服できる範囲内	4 ほとんど無い					
説明	国際交流は国際的視野・感覚を養う意味では重要であるので、事業を取りやめた場合、影響を及ぼすことがある。在住外国人に対する生活相談を行う事業は不可欠と思われる。										
D O 実 施	指標の推移	名称及び単位等			28年度	29年度		30年度	31年度		
					実績	計画	実績	見込み	見込み		
	成果指標	訪問団及びイベントの参加者数（人）			29	32	6	32	32		
	活動指標①	訪問団の派遣及び受入回数（回）			1	4	1	4	4		
	活動指標②	講師・通訳者派遣回数（回）			19	38	24	38	38		
	コストの推移 (単位：千円)	財源の内訳			決算	当初予算	決算	当初予算			
		歳出（直接事業費）(a)			4,399	7,099	1,779	5,634			
		歳入(b)	受益者負担額								
			受益者負担額以外の歳入（補助金等）								
		(a) - (b) = 一般財源			4,399	7,099	1,779	5,634			
正職員		従事者数（単位：人）			0.65	0.70	0.50	0.50			
		人件費(c)			3,710	3,995	2,907	2,907			
トータルコスト(a) + (c)			8,109	11,094	4,686	8,541					
単位当たりコスト	計算式等 () / ()										
備考	平成24年度から開始した韓国公州市との交流は、平成25年度と平成28年度に訪問団を派遣したが、平成29年度は北朝鮮のミサイル発射実験などの影響を受け事業を中止した。友好都市（洛陽市）交流として、7月15～16日、洛陽市人民代表大会常務委員会訪日団が来朝され、議事課と共同で受け入れ交流を深めた。										

CHECK 評価	有効性 評価	現時点での 成果について	2	1 十分な成果が出ている	2 概ね十分な成果が出ている	3 現時点では十分な成果が出ていない	4 成果がほとんど無く、大幅な改善が必要			
		説明	学校への外国人講師派遣事業は、国際的視野・感覚を養い、国際交流への関心を高めている。また、広報の翻訳や外国人通訳者派遣などは、在住外国人が生活する上で必要である。							
	現時点での 有効性を評価してください	上位施策 への貢献 度はどうか	1	1 高い	2 やや高い	3 やや低い	4 低い			
		説明	異文化の紹介、交流事業への市民の参加など、異文化への理解を深める取組、また、広報翻訳など在住外国人が生活しやすくするための取組は上位施策「国際・地域間交流の推進」に貢献していると考えられる。							
評価	効率性評価 内容や手法を見直すことにより、コストや時間の低減が可能か評価してください	2	1 効率性が高く、これ以上の改善は見込めない	2 効率性が高いが、さらに改善できる余地はある	3 効率性が低く、改善が必要	4 効率性が低い、改善が見込めない				
		説明	国際交流の関連団体が多く、法人による助成制度も充実しているため十分に活用することで、市の持ち出しの削減は期待できるが、市民視点に立って有益な交流相手を慎重に選別する必要がある。							
ACTION	この事業について、今後、具体的にどうすることにより、どんな効果が期待できるか記入してください。	韓国公州大学に市内中高生を派遣など、学生らの国際的視野・感覚を養うことを目的に事業を展開しているが、派遣は参加する学生の安全面を最優先に考える観点から慎重な判断が求められる。社会情勢等に左右されない実現性の高い交流事業を選別し、交流推進に寄与する。								
	この事業の今後の方向性を、費用面も含めて記入してください	2	1 拡大する	2 現状のまま継続	3 縮小する			課内 優先度	B	
修正 行動		説明	4 廃止又は休止する	5 完了する	友好都市交流と並行して交流の機会を増やし、異文化理解・多文化共生の意識の醸成に努める。今後様々なニーズが求められると考えられる。国際交流ではなく、市民生活という視点での事業を展開させていく必要がある。					

事務事業評価表（平成29年度実施事業対象）

（作成日：平成30年6月2日）

事業の種類を選択してください。⇒ (ソフト (任意)) 事業										
P L A N 計 画	事務事業名	友好都市交流事業								
	担当部名	総合政策部		担当課名	企画政策課		課長名	中井 孝		
	総合計画の 位置付け	目指す都市像(政策)	5	人と文化がふれあうまち						
		施策	3	国際・地域間交流の推進						
	総合戦略の 位置付け	基本目標								
		基本的方向								
	行革大綱の 位置付け	重点項目								
		項目								
		改革名								
	予算事業名	姉妹・友好都市交流費								
事業の開始年度	平成	18	年度	事業の終了予定年度	平成	—	年度			
対象	市民・職員			事業の 内容説明	平成29年度については、昨今の国際状況に鑑み、洛陽市への派遣等は実施していない。 受入れについては、平成29年7月15日から16日まで、洛陽市人民代表大会常務委員会訪日団が、来糧され、今井町を見学するなど、意欲的に糧原市内を巡り、本市に対する理解を深められるとともに、交流を深めた。訪日団が議会議長一行のため議事課との共同で受入れに対応した。					
事業の 目的	市民の国際意識を高めるとともに、行政間の様々な分野で交流を行い、相互理解、国際協力の意識を高める。友好都市である洛陽市との交流を通して相互理解を深め、友好促進を図る。									
市の関与の 必要性を評 価してくだ さい	なぜ市が 関与して いるのか	1	1 公共性や収益性の観点から、市が関与すべき事業							
			2 市の関与について見直す余地のある事業（民間に事業の一部又は全部を委ねる余地のあるものや、住民ニーズが低下している等、社会情勢の変化によるものなど）							
	説明	姉妹・友好都市との交流は、国際感覚豊かな市民の育成に寄与するものである。								
	やめた 場合の 影響は	2	1 非常に大きい	2 やや大きい	3 克服できる範囲内	4 ほとんど無い				
説明	友好都市協定の締結をしているため、両市の同意なしで事業の取りやめはできない。									
D O 実 施	指標の 推移	名称及び単位等			28年度	29年度		30年度	31年度	
					実績	計画	実績	見込み	見込み	
	成果指標	訪日団受入れ			2	2	1	2	2	
	活動指標①	訪中団派遣								
	活動指標②									
	コストの 推移 (単位： 千円)	財源の内訳			決算	当初予算	決算	当初予算		
		歳出（直接事業費）(a)			728	1,070	167	981		
		歳入 (b)	受益者負担額							
			受益者負担額以外の歳入（補助金等）							
		(a) - (b) = 一般財源			728	1,070	167	981		
正職員		従事者数（単位：人）			0.60	0.55	0.45	0.40		
		人件費 (c)			3,424	3,139	2,616	2,325		
トータルコスト (a) + (c)			4,152	4,209	2,783	3,306				
単位当 りコスト	計算式等 () / ()									
備考	洛陽市人民代表大会常務委員会訪問団受入 来訪者：洛陽市人民代表大会常務委員会 主任 外5名									

CHECK 評価	有効性 評価	現時点での 成果について	2	1 十分な成果が出ている	2 概ね十分な成果が出ている	3 現時点では十分な成果が出ていない	4 成果がほとんど無く、大幅な改善が必要	
		説明	平成29年度、派遣については、昨今の国際情勢に鑑み、見送った。受入については、洛陽市人民代表大会常務委員会訪問団6名を受入れ、今井町見学など、意欲的に榑原市内を巡り、本市に対する理解を深められるとともに、交流を深めた。					
	現時点での 有効性を評価してください	上位施策 への貢献 度はどうか	2	1 高い	2 やや高い	3 やや低い	4 低い	
		説明	友好都市である洛陽市との交流を通して相互理解を深め、友好促進を図ることが期待できる。					
評価	効率性評価 内容や手法を見直すことにより、コストや時間の低減が可能か評価してください	2	1 効率性が高く、これ以上の改善は見込めない	2 効率性が高いが、さらに改善できる余地はある	3 効率性が低く、改善が必要	4 効率性が低い、改善が見込めない		
		説明	互いの交流を深めることが友好都市協定の趣旨であるため、こちらからの訪問回数の調整は可能であるが、受入については、コスト削減は難しい。					
ACTION	この事業について、今後、具体的にどうすることにより、どんな効果が期待できるか記入してください。		友好都市の認知度を上げるためにも、交流事業を行い、市民の参画を促していく。 また、行政間交流に加えて、青少年の訪問団派遣等を受け入れることにより、より一層の市民交流を図ることができると考えられる。					
	修正 行動	この事業の今後の方向性を、費用面も含めて記入してください	2	1 拡大する	2 現状のまま継続	3 縮小する	課内 優先度	B
説明			4 廃止又は休止する	5 完了する	訪問団の受入・派遣等の交流の機会を引き続き検討し、市民に対して国際交流事業への参加を促すとともに、相互理解を深めていく。			

事務事業評価表（平成29年度実施事業対象）

（作成日：平成30年 6月 5日）

事業の種類を選択してください。⇒		（ ソフト（任意） ）		事業					
P L A N 計 画	事務事業名	姉妹都市・観光団（宮崎市・橿原市）事業							
	担当部名	魅力創造部		担当課名	観光政策課	課長名	細川 長人		
	総合計画の位置付け	目指す都市像(政策)	5	人と文化がふれあうまち					
		施策	3	国際・地域間交流の推進					
	総合戦略の位置付け	基本目標	3-2-2	新たな人の流れや交流を増やす					
		基本的方向	①	「橿原」の魅力を広く発信する					
	行革大綱の位置付け	重点項目							
		項目							
		改革名							
	予算事業名	姉妹都市観光交流費							
事業の開始年度	平成	42	年度	事業の終了予定年度	平成	-	年度		
対象	公募による観光団（宮崎市民・橿原市民）及び踊り隊、宮崎市物産業者			事業の内容説明	①親善訪問観光団事業 毎年宮崎市の「宮崎神宮御神幸祭」に合せて、市民公募により結団された親善訪問観光団を宮崎市に派遣する。観光団は宮崎市をはじめとする九州各地を訪問し、費用の一部を市が負担する。 ②宮崎親善訪問団歓迎会事業 毎年4月の「春の神武祭」のバレードに合せて来市する姉妹都市宮崎市の訪問団に対して公式歓迎会を行う。 ③「えれこっちゃんやざき」踊り隊派遣事業 宮崎市で夏季に行われる「えれこっちゃんやざき」へ踊り隊を派遣する。 ④「橿原夢の森フェスティバル」参加宮崎市物産関係者歓迎会事業 毎年10月に開催される「夢フェス」に合せて来市する宮崎市物産関係者に対して公式歓迎会を開催する。				
事業の目的	・姉妹都市間の訪問（観光）団や踊り隊の相互派遣の推進により、姉妹都市宮崎市との友好の絆を深める。 ・市民間の交流に力点を置き、その結果互いにつながる意識の醸成を図ることを目的とする。								
妥当性評価	なぜ市が関与しているのか	2	1 公共性や収益性の観点から、市が関与すべき事業						
			2 市の関与について見直す余地のある事業（民間に事業の一部又は全部を委ねる余地のあるものや、住民ニーズが低下している等、社会情勢の変化によるものなど）						
	説明	橿原市観光協会、橿原青年会議所・橿原商工会議所・農業団体等の民間交流が進んでおり、観光面で行政が関与することについて公益性や費用対効果の面から見直す余地はある。							
市の関与の必要性を評価してください	やめた場合の影響は	3	1 非常に大きい	2 やや大きい	3 克服できる範囲内	4 ほとんど無い			
		説明	中止したとしてもその影響は軽微であるが、観光面における姉妹都市交流はこの事業だけであるため、改めて姉妹都市交流のあり方を模索し、新たな施策の実施が姉妹都市間の継続的な友好交流のために必要となる。						
D O 実 施	指標の推移	名称及び単位等		28年度	29年度		30年度	31年度	
				実績	計画	実績	見込み	見込み	
	成果指標	訪問観光団の応募者数		32	30	37	30	30	
	活動指標①								
	活動指標②								
	コストの推移 （単位：千円）	財源の内訳			決算	当初予算	決算	当初予算	
		歳出（直接事業費）（a）			8,707	4,982	4,220	4,648	
		歳入（b）	受益者負担額						
			受益者負担額以外の歳入（補助金等）						
		(a) - (b) = 一般財源			8,707	4,982	4,220	4,648	
正職員		従事者数（単位：人）			0.95	0.90	1.15	0.80	
		人件費（c）			5,422	5,136	6,685	4,650	
トータルコスト（a）+（c）			14,129	10,118	10,905	9,298			
単位当たりコスト	計算式等 () / ()								
備考									

CHECK	有効性評価	現時点での成果について	3	1 十分な成果が出ている	2 概ね十分な成果が出ている	3 現時点では十分な成果が出ていない	4 成果がほとんど無く、大幅な改善が必要			
		説明	様々な改善策を施してもなお、訪問団の応募者の減少や参加者の固定化、高齢者参加の偏重などが両市ともに問題となっている。姉妹都市交流における事業目的の達成の観点からすると、十分な成果が出ているとは言いがたい。							
	現時点での有効性を評価してください	上位施策への貢献度はどうか	3	1 高い	2 やや高い	3 やや低い	4 低い			
		説明	地域間交流により、本市独自の文化を発信し、人・物・文化の交流を目指す総合計画の趣旨からすると、交流が一部の市民にとどまってしまう現在の事業のあり方では、上位施策への貢献度は高いとは言えない。							
評価	効率性評価 内容や手法を見直すことにより、コストや時間の低減が可能か評価してください		3	1 効率性が高く、これ以上の改善は見込めない	2 効率性が高いが、さらに改善できる余地はある	3 効率性が低く、改善が必要	4 効率性が低い、改善が見込めない			
		説明	訪問団の参加費用については、貸切バス料金の高騰化などの社会情勢の影響を受け、低減は困難である。歓迎会については、一部の市民を対象に公費をつぎ込むことの是非を含め、そのあり方を両市で見直すことでコストが低減する可能性はある。							
ACTION	この事業について、今後、具体的にどうすることにより、どんな効果が期待できるか記入してください。	<p>・これまで一般成人を対象に51回親善訪問観光団を継続してきたが、若年層の交流の機会を創出することを目的に児童を対象とした訪問団と隔年で実施することに変更する。</p> <p>・また、姉妹都市交流のあり方そのものについて、全庁的に再考が必要であることから、公益性の観点を重視した事業構成に改めるよう検討を継続する。</p>								
	この事業の今後の方向性を、費用面も含めて記入してください	3	1 拡大する	2 現状のまま継続	3 縮小する			課内優先度	D	
修正行動		説明	<p>4 廃止又は休止する</p> <p>5 完了する</p> <p>上述のとおり訪問団のあり方そのものを再検討するとともに、歓迎会については、招待者の絞込みを含めそのあり方を宮崎市と調整しながら見直しを行い、コスト削減も検討しつつ、市民全体が本事業の成果を享受できるよう改善に努める。また、児童交流事業についても効果の検証を行いつつ実施していく。</p>							